

平成六年度の活動について

町内会連合会 高崎 修

平素は町内会連合会の活動に対して、ご理解とご協力を戴き厚くお礼申し上げます。

町内会連合会も定例総会を終えて二年目の活動へと一歩を踏み出しました。本年度は次の様な活動を計画していますのでご協力をお願いします。

一、部活動の開始

組織的な活動を行うため、活動主体である「部」制の発足によりきめ細かな具体的な活動を行ないます。設置する部は、町内での活動が期待されている内容について設置したものです。三原市や社会福祉協議会等の活動に対応する受皿的なものも含まれています。

部員は連合会役員も参加しますが町内有志の方の参加を得て部活動が活性化することを期待しています。日頃関心を持たれている項目について

積極的に参加をお待ちしています。

二、広報紙の発行

町内では町内会連合会の他にも各種の団体が色々な活動を行なっています。又、色々な出来事も発生していますが、町民全体が共通の情報として承知して戴くことが、深町の現状を認識し理解するためにも有意義ではないかと考えまして、町内全戸に広報紙をお届けすることとしました。又、個人の立場でも町内会連合会や、町内の問題等について、ご意見ご感想、お気付きの点がありましたら、積極的にご投稿下さいます様お願いいたします。

なお、この広報紙は月一回の発行を予定していますが、継続的に発行するためには記事の依頼、編集、印刷、配達などの人手が必要となります。このため、この広報紙の発行に関心を持たれてご助力を戴ける方がありましたら、是非ともご協力を戴きます様お願いいたします。

深町連合会 金堀 伍一

特に「鳩よ舞い上がれ」は平和追求の歌。先生のピアノ演奏とびつたりのコラスに感動。昔の私達の育った時代に比べ、現代の音感教育の躍進の足跡を見た想いであった。

四月四日(日)深町尚寿会総会終了、役員改選により会長に五選され浅学非才の私故にその責任の重さを痛感する。老人がこれ迄生かされてきた社会への報恩と終着駅に近い余生を肩よせ合せて、ボランティア活動と生き甲斐を高める各種活動。健康づくりにかかわる活動を通じての世代交流を目指しておりますのでよろしく。

和郎です。

深町水利組合新役員

- 組合長 石井 静夫
- 副組合長 井手 上昭昌
- 理事・石井 静夫・井手 上昭昌・西 永隆夫・新谷 明・幸谷 満夫・麓 正徳・屋敷 誠三・岩下 正明
- 監事・為清 智紀・村上 哲郎・山垣 内尚
- バルブ係・北迫 繁男・西角 武義・石 井 峯雄・岩野 一穂

いらっしやいませ

- ★ 東味 ▼ 岡本 豊 04-11 ▼ 松尾 貞美 04-7 ▼ 中川 卓司 04-7 ▼ 沖直通 04-4 ▼ 橋口 安彦 04-4
- ★ 中味 ▼ 奥本 邦博 04-11
- ★ 味 ▼ 高田 玲爾 04-4

お悔み申し上げます

- ▼ 成末 博志 様 八十八 04-1-0
- ▼ 成末 養老 様 七十一 04-1-11
- ▼ 小林 忠行 様 六十四 04-1-10
- ▼ 北迫 輔 様 八十五 04-4-10

団体行事のお知らせ

- ★ 小学校
- ▼ 5/7 小運動会 ▼ 5/8 PTA 役員会 ▼ 5/17 参観日 ▼ 5/18 修学旅行 (二日予定で京阪神)
- ★ 尚寿会
- ▼ 5/18 世代交流 GB 大会 ▼ 5/22 三世代交流 GB 県大会予選会
- ★ 消防団
- ▼ 5/24 町内危険箇所巡回点検
- ▼ 5/25 月間定例器具点検
- ★ 婦人会
- ▼ 5/6・5/7・5/8 の各日に下・中上の親睦会を開きます。 ▼ 5/18 役員会

私の活動記録より

三月十三日(日)学園橋開通式典に団体長として招待され、市長、市会議長、市会議員と並び、テープカットの光栄に浴す。老人クラブ代表として、三月二十四日(木)深小小学校の卒業式に招待され参列。十二名の卒業生の楽器演奏の見事さ、在校生の全児童と職員の皆さんによる合唱、校歌、さよなら友よ、はばたけ鳥、

会報によせし

PTA会報 藤川 敏和

このたび、皆様の御推薦により、深小小学校PTA会長の重責を担うことになりました。微力ながらできるかぎりの努力する所存であります。果たして私のような者に務まるかどうか大変不安であります。

町内の皆様には歩道問題をはじめとして、いつもPTA活動にはお世話になっております。

頼りない会長ではありますが、いろいろお世話になると思いますのでどうか、御協力のほどをよろしくお願い致します。

尚、私を補佐してくれます三名の副会長は北迫孝三、亀谷敏雄、沖西

席 望 展

町内会連合会が発足して一年が過ぎました。上・中・下の町内会が大同して「やりましょう」とうことになったのが昭和五十八年三月十五日町民会館落成式、その間紆余曲折はありましたが先人の努力で今日に至りました。組織は時代の変化にマッチした内容に変えてゆかねば無用の長ものになることは、国の機関や地方自治体のセクション存廃を巡る論議でよく耳にします。つくられた時代はそれなりの必要と目的から生まれたものですが、誕生するや存続させることが目的になるようです。▼これを防ぐには組織をあづかる者が初期の目的を忘れないこと。第二は、マンネリ化を防ぐことです。一番こわいのはマンネリ化をマンネリ化と気づかぬ体質に陥ることです。▼組織の硬直化を防ぐために、みなさんからの「提言」を歓迎します。連合会組織へのものと同時に、この紙面への批評、編集アイデア等なんでもお寄せ下さい。